

長崎県立大学シーボルト校 国際情報学部4年 工藤 恭綺 (くどう みつき)



宮崎県延岡市出身です。長崎には大学入学の2015年春から住んでいます。

私はナガサキ・ユース代表団第4期生でもありました。第5期生として継続しなかった理由は、多くの情報を吸収した分、他の活動に挑戦し自らの学びを見つめ直したいと考えたからです。しかし約1年間おいてみて、やはり私は核兵器廃絶に向けて知識を蓄え、アクションを起こしたいという結論に至りました。そこには、長崎を訪れたアメリカの友人が核保有に対して肯定的な意見を述べていたこと、私自身の卒業論文が平和教育関連のテーマであり、被爆者などの方々から直接証言を聞くことが可能な最後の世代としてPEACE CARAVAN等を通じて平和教育の在り方をメンバーと共に模索したいこと、などの背景があります。

2017年は「核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN)」がノーベル平和賞を授与され、核兵器廃絶への注目に加えて期待も高まっていくのではないのでしょうか。私自身もナガサキ・ユース代表団の一員として、「2020年NPT再検討会議第2回準備会議」を含め、声をあげる機会が多々あります。第6期生として、最大限に学びを吸収し、一人でも多くの方々に私たちの活動を共有できるように努めていきたい次第です。



長崎純心大学 人文学部3年 酒井 環 (さかい たまき)

ナガサキ・ユース代表団の一員として初めて活動したこの一年、世界における日本の立場や現代の核情勢を肌身で感じ、『もどかしい』、『悔しい』思いで一杯でした。それでも活動を経ていく中で、多くの人たちに支えられ、私は大きく成長することができたと感じています。

2年目。6期生として私に何ができるのか、何をしたいのか……

それは5期生での経験と想いを行動に変え、いま以上に自分の意見を多くの人達へ、若者へ繋いでいける、発信者でありたいと思います。

ナガサキ・ユース代表団の一員として、核問題の現状・事実を学び、感じ、そして伝える。若者だからこそその視点で考え、行動に移すことができる。これがナガサキ・ユース代表団であり、私自身の使命であると感じています。そして、被爆地長崎で育ち、学んできたものとして、被爆者の方々が私たちに伝えてくださっている被爆体験をしっかりと胸に刻み、長崎の若者の代表として被爆者の方々の想いを伝える発信者でもありたいと思います。

「この経験をまだ生かせるはず。ここで終わらせたくない。」

5期生を務め終えた後私の中でこんな思いが溢れ出しました。

これから先の6期生の活動の中で、自分の力を発揮し、ナガサキ・ユース代表団6期生として精一杯活動していきたいと思います。



長崎県立大学 国際情報学研究科2年 孫 明悦 (そん めいえつ)

初めまして、中国からの留学生孫明悦です。

中国江蘇省の蘇州出身で2016年に長崎県立大学に入学しました。長崎に来てから、原爆に関する記事を読んだり、ドキュメンタリーを観たりして来ました。その中で、核兵器の存在は「平和」への持続的な脅威だと感じています。また、様々な「平和」に関する活動や取材に参加しながら、いろんな人たちと交流することができました。そこは、「平和」や「核問題」について、一つの国、一つの政府の問題ではなく、全世界の人々に関係があり、「核なき世界」を実現するため、自分にできることを見つけたいと思い応募しました。

「No Peace No Life」国籍が違って、「平和な世界」を願うことが同じです。皆さんと一緒に、「手を繋いで」、前に進むことができればと思っています。これから、ナガサキ・ユース代表団の一員として頑張ります。帰国後には、長崎で経験したことを伝えていきたいと思っています。よろしくお願いします。



長崎大学 多文化社会学部3年 中島 大樹 (なかしま たいき)

私は、領事館のプログラムで行ったカンボジアで「平和」の大切さを学びました。たとえ、お金がなくとも、電気や水道がなくとも、人は笑うことが出来ます。自分なりの人生を楽しむことも出来ます。それは、いつも大事な家族や友達が傍におり、夜になれば安心して眠りにつく「平和」な生活があるからではないでしょうか。

私には近い人で被ばくした人もいませんし、大阪生まれ福岡育ちでこれまでの平和教育でも大した授業を受けた覚えもありません。そのため、私より長崎や広島などで育った人の方が核軍縮等への意識には強いものがあるかもしれません。しかしながら、だからこそカンボジアでの経験を活かしながら、独特の視点から核軍縮問題などについて考えることが可能であり、それらを自分なりの言葉で伝えられると思っています。

核なき世界の実現には長い年月が必要となるでしょう。だからこそ、将来の世界のために、すべての人がこれらの問題やそれぞれの価値観について考えを持つておくことは重要だと思います。これから、この機会を通して10年後、100年後の日本、世界に良い影響を与えられるような布石となるものを共に創っていきましょう。



長崎大学 多文化社会学部3年 永江 早紀 (ながえ さき)

長崎大学多文化社会学部、2年の永江早紀です。

私は、この時代に日本という恵まれた国に生まれて、何不自由なく暮らしてきました。しかし、小学校の頃他の国には身の回りで紛争が起きて毎日怖い思いをしながら生きていく人を知り、ショックを受けました。

今日では、「平和な世界を目指して」と、色々な取り組みがされてきましたが、毎日世界のどこかで紛争が起きていたり、核ミサイルが飛んでいたりしています。平和な世界の実現において、核兵器廃絶は大きなテーマだと考えます。世界中で平和を実現することは簡単なことではないと思うけど、その中でも、自分には何ができるかを考え、実行していきたいです。以前から抱いていた、早く世界中のみんなが安心して暮らせる世界になってほしいという思いを持って、ユースとして色々な経験をしながら核のない世界を目指して一生懸命頑張ります。



長崎大学 多文化社会学部3年 原田 怜奈 (はらだ れな)

私は熊本県出身で、大学進学がきっかけで長崎に来ました。小学校の修学旅行では長崎の原爆資料館や平和公園を訪れましたが、私の周囲では核廃絶や平和教育の大切さに関して、他人事のような雰囲気がありました。しかし長崎に来てからは、核や平和についての人々の運動をよく見かけるようになり、私も核廃絶に貢献したい、核問題を取り巻く国際情勢を学びたいという思いが湧き、ナガサキ・ユース代表団に参加を決めました。核廃絶の達成に近づくために、私達学生を含め、市民が声を上げ続けなければいけません。国家の枠組みを超えた市民運動が、少しずつ世界を変えていけると信じています。とくに、被爆地ナガサキから世界に意見を発信すること、過去の記憶を伝え、核兵器の非人道性を訴えることが重要です。さらに、世界への発信とともに日本国内での活動も積極的に行いたいと考えています。どこか「無関心」な日本人の意識を、平和教育で変えていきたい。ひとりひとりの力が、核廃絶への大きな一歩へとつながるはずで



長崎大学 多文化社会学部3年 福井 敦巳 (ふくい あつみ)

私はナガサキ・ユース5期生として昨年の5月、ウィーンにて行われたNPT再検討会議準備第一回会合に参加することができました。会議に参加して正直に思ったのは、非核兵器国と核保有国の意見の対立は思っていた以上に深刻だということです。核保有国の核放棄を訴える非核保有国に対して、核軍縮を進めようとしぬ核保有国の姿勢を目の当たりにしたときに私は危機感を覚えました。

私はこの状況から脱却しさらなる核軍縮を進めるために、市民社会の力がカギであると信じています。

昨年は核兵器禁止条約が採択され、各国政府を巻き込んで条約制定を進めた国際NGOのICANがノーベル平和賞を受賞するという歴史的な年となりました。市民社会の声が世界に届き、それは世界を変える力を持っているということが証明された出来事だと思っています。

ウィーンから帰国後には、より多くの人に核問題に関心を持ってもらいたいと考え、4期生が行ってきたピースキャラバンを5期生で引き継ぎました。

教育という場を通して核問題について知ってもらうきっかけを与える中で、多くの人に平和に向けて動いてもらえるように自身の経験や思いを話すことができました。

これから6期生では、平和を目指すアクターとして核廃絶への波を強めることができるようにさらなる活躍を目指すつもりです!!!



サセックス大学 環境開発学 進学 (イギリス) 三浦 大輝 (みうら たいき)

はじめまして。今回が初めての参加です。私は、これまで22年間長崎で生まれ育ち、平和教育や祖父母からの話で戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさ、諸外国との戦争に対する見解の相違を学び感じてきました。一方で、知るだけではなく何かしらの形で核兵器廃絶に向けて貢献したいという思いを持っていました。しかしながらどのように貢献できるのか具体的に想像できず、その事が参加理由の一つとなりました。

また、私は長崎大学で環境問題について学び、特に教育の視点から調査研究してきました。本活動では以下の2点にも注目して活動していきたいと考えています。①核兵器に対する人の認識・態度・行動。②核兵器や核融合を用いた装置がもたらす環境への影響。人の関心・意識・行動に影響を与える教育活動や宣伝活動が最も重要だと考えています。そうした活動による貢献をしたいと思っています。核兵器廃絶に向けて日本のみならず世界ではどのような活動が存在し、どのような人が行動しているのか、そして今後自身が活動する上でどのような方法があるのか。そうしたことも踏まえて精力的に活動します。自分にできる最大限の事をしていきたいと思ひます!